



寝たきり患者が車椅子シーティングを活用するための看護援助方法

看護学科

青森 広美 准教授

【研究分野】 車椅子シーティング、基礎看護学

【キーワード】 車椅子シーティング、寝たきり患者、動作分析

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=285aomo>



研究概要

現在の日本において、一個人として自立して社会生活を営むことができる「健康寿命」と、生が尽きる「生命寿命」のギャップは約10年あり、その間を寝たきりで過ごす高齢者も少なくありません。寝たきりであることは、患者の「生きがい」、能力の維持、社会とのつながりを削ぎ、患者の「生活の質」に大きく影響します。寝たきりで過ごしている患者の医療処置や看護援助をベッド上だけではなく、安楽に車椅子上で実施できるという変換ができれば、患者がベッドから離れる時間を増やすことができます。このことが患者のQOLの向上に寄与すると考え、車椅子上での看護援助に関する研究に取り組んでいます。

研究紹介

・ベッド上、車椅子上での看護援助時の動作分析

模擬患者にて、ベッド上、車椅子上の患者への看護援助の負担を分析した。看護師の背部に、無線3軸姿勢センサを配置し、センサ間の相対角度から、「腰痛につながる脊柱の傾斜やねじれ」の程度を比較した。

・車椅子シーティング中に安全に看護援助を受けるためのガイドラインを作成中。



講座テーマ紹介

- ・患者／援助者に負担の少ない日常生活援助技術
- ・車椅子での生活への介助
- ・意思表示が困難な患者とのコミュニケーション

アピールポイントなど

車椅子シーティングに精通した理学療法士と共同研究をしております。先進的な車椅子シーティング技術を持つカナダや欧米の現状についてもお伝えします。